

訪問記

田村實業銀行 頭取 永山徳一氏

山郷切つて名望家であり富豪である、川前の開墾と云ひば、先代徳左衛門氏時代より、永山徳本家たる永山徳一氏を指すものであらう記者は紅葉の地を以て近來新名所となれる、夏井川の谿谷を訪ねて、更に西進し小野新町の田村實業銀行に到りて、頭取室に永山頭取に面接す。

永山氏「イヤ久し振りですな、イッモ御健在での御奮闘で何よりです、大分寒くなりましたね、毎度新聞を郵送して呉れて有難う。

ムツカシ屋の永山氏記者の姿を見るか素は早くの如才ない言葉には面を喰ふて仕舞ふ。

記者「川前の紅葉は當に天下に有数の名になりまして、宣傳の方法に據つては東北の耶馬溪たるは近き將來ですね。

頭取曰く「鐵道でも便宜を圖つて呉れて江田信號所に仮停車場を設けて料金を割引をやつたとして呉れるし、平町の有志や地元有志の御力で、文豪大町桂月先生の歌碑を建設されたなど一名所を増加した様な譯ですな。

記者「名所を紹介したり記念碑を建設するなどは重部治翁の閑居を訪れて、

所謂、床かき精神の發露に依つて生れるものでせう、深山靈谷の地に多御話を語りますと、鈴木老く觀客を招きせんと思はれますと、第一條名所を紹介するが第一條件と思はれますと。

頭取曰く「全く市島老人の御説の如く同感です。先づ私も共鳴者の一人でせう。

記者曰く「頭取さん何にか珍談實話でもありませんでせうか頭取曰く「時にお先年仙臺藩の備者で有名な、岡鹿門先生が滞在されておられた時に、先生が傑作の一詩があるよ。

偶過村莊掃榻眠。一團嫩綠子規天。老湯三沸試新茗。腋下清風骨欲仙。

丁亥春於永山亭鹿門山人と示されて更に

永山頭取曰く「君永山亭と云ふ私の別荘があるだらう私は個人で此の詩を天下に普ねく紹介する考えだよ、記念碑を建設するから君の新聞を通じて其時は何分の御願するからね

記者大に此の好意に感謝しつゝ、同所を辭したのであり

記者「流石は名門家の主人であるとして一種異様の感を抱きつゝ、歸平致しました。

× × ×

次ぎの日、相馬の聖人鈴木重部治翁の閑居を訪れて、

發展途上の 朽窪鑛業所

矢郷倉藏氏の手腕と人格

矢郷倉藏氏は長く常磐炭界に其技術を發揮した人望家として大に活動された志士であり同先生の揮毫などは時價千圓の價ひするものである、石城の山郷に「エライ堀り出しものだ」と申されてゐられました。

記者は一日も早く此の有名なる鹿門先生の記念碑の建立されん事を祈る。

尚ほ鹿門先生の一代誌を詳細精査した上に漸次本紙に掲載せんとするものである。

酒は……

大和錦

五十嵐酒店 電話五二九番

政治的手腕を有す 松永高之助氏

……縣會の一異彩……

磐越線神保驛の松永高之助政治に奔走されてゐるが氏は相馬郡原町の人、去るは縣會の花形として又闘士大正四年中當時の平郡線開通を期として鬱勃たる事業を起して現在の地に移轉して資性頗る濃厚にして地石城郡川前村大字小白の地内山林約千町歩を賣收して自宅の前から私設の軌道を敷設して木材搬出に便ならしめ薪炭並に鐵道の枕木等を製材並に販賣して現在植田町尋常高等小學校長鈴木忠氏は二十貫の偉大な體軀を有して柔道の有段者であるが資性頗る溫和敦

高木保氏

前田先生

郡南刀圭界の雄として名聲あり資性極めて穩かにして仁慈を以て知られてゐる前田清美先生は學校醫として兒童等に献身的に盡す所多大にして地方民より大に期待されてゐる。

好評ある

高木醫院

植田町高木醫院は今春高萩町より以前片岡醫院跡へ移轉開業されしが患者に對して頗る親切なので開業以來門前市をなすの盛況である一般患者より大に期待されてゐる。

安田屋吳服店

電話一四番

良品廉賣をモットーとして顧客より多大の信用を受けてゐる安田屋は吳服、太物商を營み植田町一流の商店として知られてゐるが常に最新なる新柄を豊富に取り揃ひて居る、眞剣實直の商店で頗る人氣があり商賣日に繁昌してゐる。

渡邊儀一氏

森合芳男氏

植田町會議員中の雄人物なら、識見なら流石以前郡山署に特高課長として敏腕を揮はれた丈の價値はある君亦郡南政友會の重として將來を期待されてゐる。

渡邊重三郎氏

植田町に新炭商として勇躍してゐる人で現町會議員であるが資性頗る溫和敦

鐵屋商店

電話二六番

永山忠二氏

之助の經營する雜貨卸小賣店で親切熱強で一般顧客から好評を寄せられてゐる。

石城郡川前村で消防組頭並助役永山忠二氏は村長の女房役として村長を補佐し事務亦よく整理統一され村民からの信用がある。

長瀬吳服店

電話三五番

菊地壽七氏

業績向上する

山口屋商店

植田町山口屋商店は山口近し精選された良品揃で値段も格安といふので繁昌を示してゐる、亦主人長瀬米治氏は正直温厚の人にして店木炭の改良に献身的の努力を拂ひ良品を關西方面亦たは東京等へ出荷販賣を營み居るが頗る信用があり取引極めて盛んで業績日に向上してゐる。

矢内半三氏


川前郵便局長

石城郡川前郵便局長矢内半三氏は多年村治に盡力し村振つてゐる通信事務に極め會議員、亦た以前村長を歴て練達し統一した郵便事務任した功勞者であるが現在に懸けて模範とされてゐる

良品廉賣に勝る商略なし

磐城セメント特約代理店

金物問屋



釜屋商店

磐城平町五丁目 電話九番・九九番

東京替振貯金口座一〇九五六